

後援会からのお知らせ

名雪祥代グループ with ウィリアムス浩子  
ヴァレンタインジャズコンサート 心に響く愛の歌

2022年 2月10日(木) 電力ホール  
全席指定 4,000円  
開場18:00 開演18:30

お問い合わせ 社会福祉法人 仙台いのちの電話 事務局  
TEL 022-718-4401 FAX 022-718-4431

去年はコロナ禍で断念してしまいました恒例の仙台いのちの電話チャリティコンサート。今年度はバレンタインデーにちなみ後援会としては初めてのジャズコンサート「名雪祥代グループ with ウィリアムス浩子」さんの一心に響く愛の歌一を開催することになりました。ひと足早いバレンタインデーの夜、心地よいジャズサウンドに耳を傾けてみませんか。(後援会)

2022年 2月10日(木)

電力ホール

開場 18:00 開演 18:30

全席指定 4,000円

扱いプレイガイド

藤崎 仙台三越

電話でのお申込み

022-718-4401

(平日 10:00 ~ 17:00)

FAX でのお申込み

022-718-4431

ホームページからのお申込みは



# 仙台いのちの電話

相談電話 022(718)4343

インターネット相談 <https://www.inochinodenwa.org/>

いのちの電話ネット相談 検索

フリーダイヤル 0120(783)556

(毎月10日)

ナビダイヤル 0570(783)556

24時間受信  
年中無休

2022年  
開講予定

## 第49期相談員養成講座受講生募集(予定)

～悩む人々、孤独にある人たちの良き隣人として  
ボランティアを始めてみませんか～

応募資格：22歳以上の方で心身共に健康で、「いのちの電話」の趣旨に賛同し、月2回以上のボランティア活動及び、相談員認定後の所定の研修に参加できる方。

募集詳細：応募方法、募集期間、定員、研修費用、研修会場、面接日などは決まり次第ホームページ等でお知らせします。

### お問い合わせ

社会福祉法人 仙台いのちの電話 事務局 (月～金 10時から17時)

TEL 022-718-4401 FAX 022-718-4431

仙台いのちの電話ホームページ



## 編集後記

「コロナの拡大が不安で不安で…」とある日の相談電話からは沈んだ声。第5波のピーク時に日本中がコロナ禍に覆われ、誰もが例外なく不安に包まれた日々を過ごしていた頃です。「あなたと同じく私にも不安な気持ちが同居しています。どう過ごしていけばいいのか悩んでしまいます。皆さん不安の中どうされているのでしょうか」正直に心の内を伝えました。しばらくは、どんな不安があるかの話題で過ぎていきました。ひとしきりして「相談員がそんなに不安がちゃだめじゃない！元気出さないよ」急に元気な声が聞こえてきます。誰もが不安感に浸っている中、一期一会の相談者から激励をいただいた一瞬でした。ほどなく、落ち着いた声であいさつを交わし受話器を置きました。今、この方も活動再開しているかな。と思っています。(K・S)

社会福祉法人 仙台いのちの電話

事務局 〒981-8691 仙台北郵便局 私書箱26号  
<http://sendai-inochi.jp.org/>

発行人 飯岡 智  
編集 仙台いのちの電話広報委員会 Tel.022-718-4401  
印刷 株式会社 市瀬 Tel.022-232-3520



作画：高橋研二氏(仙台いのちの電話賛助会員)作、寄贈

## Contents

企画「実は腹の底では気付いている」No.2…2	法人活動報告 ……6
想い「47期養成担当者からのエール」…2～3	「つどいの会」開催(継続30年相談員の想い)…7
48期養成講座研修中間報告 ……3	資金ボランティア(皆さまからのご支援)…7
<b>特集</b> さまざまな活動を再開しました…4～5	後援会からのお知らせ ……8
ゲートキーパー養成講座へ講師派遣…6	第49期相談員養成講座受講生募集 ……8

## 自分を認められる人がかけ手に気づきを促す

仙台いのちの電話

専門委員（公認心理師・臨床心理士） 佐藤 智昭



突然の締切に驚く私。「何を書いたら良いんだ…。」ふと気付く、自問自答の必要性。「またまた～、あなた、実は腹の底では気付いているでしょ？」なるほど。さらに自問自答。「他にいませんか？そういう人」つまり、「私以外にも、突然のことに驚いてどうしたらよいか分からない人がいる」と気付く。

「相談員の皆様や世の中の人にとって、突然のことのひとつはコロナだ！」と閃く。でもですね、「皆さんどうしたらよいか、実は腹の底ではお気づきでしょ？」え、どうしていいかわからない？

では聞きますね。「今までどうやってこの一年半を乗り切ってきましたか？そこに答えがありますよ。」例えば、庭の草を抜いていたとか、コロナ下でも受け手をしていたとか、あえて電話を休止し感染拡大を防いだとかなど、それぞれ実践されていた、いるのだと思います。私はそれが、世のため人のため、世界への貢献だと信じておりますが皆様はいかがでしょうか？

どこからともなくつぶやきが聞こえてきます。「本当にこれで良い（良かった）のでしょうか？」答えは、「またまた、腹の底ではお気づきでしょうか？」自分で自分を認められる人が、かけ手にも気づきを促せるのだと思います。そして、これまた頭ではわかって心からはそう思えない人が多い。「認めるのが難しいです。それで良いのでしょうか？」答えは、「またまた、腹の底ではお気づきでしょうか？」かけ手が自身を認める困難さに心から共感できるでしょう。それでも認められない人は、「グルグル悩み続けましょう。」疲れ果てたらクラクラ～パツパツ。腹の底と心と体はお気づきでしょう、パツパツ休憩が必要です。元気が出たら、また世界にご貢献ください。

佐藤 智昭（サトウ トモアキ）

昭和45年生まれ 51歳（岩手県盛岡市出身）

臨床活動 公立・私立スクールカウンセラー、専門学校非常勤講師、大学非常勤講師  
(21年間) 民間企業心の健康相談社外顧問、職業相談、仙台市・私立学校教員研修講師、ワークショップ講師、葛藤解決と組織変容ファシリテーターなど。

## 想い



### 「47期養成講座」 後期養成担当者から

#### 一人ひとりの個性が豊かに

研修生の皆さんご苦労様でした。途中でコロナによる中断があり、再開したと思ったらまた中断、という前例のない研修でした。この研修の中で私が感じたのは、研修生相互の支え合う力の強さです。研修の中で「お互いを信頼して、みんなの力で前に進んでいこう」というものが次第に形成されていたようです。一人ひとりの個性が豊かに発揮されるようになっていくのが感じられました。

スマップの歌だと、ナンバーワンよりオンリーワン。皆が輝いている。さあ、私も輝かなくちゃ（と言って、頭のてっぺんが薄くなって来たのが気にかかります）。 (Y・S)

### 手を取り合って進みましょう

47期生の皆さん、今年の養成講座は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け講座が何度も中断してしまい気持ちを立て直すのが本当に大変でしたね。10月になってやっと2か月のブランクの後久しぶりに顔を合わせた皆さんからは、不安な気持ちや頭が休んでしまっ取り戻すのが大変、といった声が聞かれましたがやる気はひしひしと伝わってきました。

電話の向こうの声に耳を傾け気持ちを聴くということ、基本は傾聴ですが電話をかけてよかったかどうかは相談者にしか分からないことなので歯がゆいですね。私たちはもやもやした気持ちを抱え振り返りながら前に進むことが求められます。ひとりで悩むと出口が見つからなくなりますよ。これまで一緒に学んできた仲間や先輩の相談員に話すことで気持ちにゆとりが生まれることもあります。さあ手を取り合って進みましょう。 (S・R)

## コロナ禍で研修進んでいます。「48期養成講座」

第48期相談員養成講座は7月3日（日）に受講者18名で開講しました。順調に研修は進んでいましたが、8月・9月はコロナ感染拡大の影響を受け、研修の中止を余儀なくされました。

しかしながら、養成講座プログラムの中でも特に重要な研修とされている、集中的学習は予定どおり9月18日から20日まで3日間行われました。従来は2泊3日の研修ですが、昨年からは3日間連続通いの研修に形式を変えました。

この研修のねらいは、「いま、ここで」の自分自身の気持ち、感情に気づき、それを表現してみることで、グループのメンバーの気持ちを感じとり、その事に自分はどうか関わっていくのか、そこから自分と人との関わり方、ものの見方、考え方、感じ方の特徴に気づくことです。

最初は戸惑っていた受講者ですが、最終日に3日間を次のようにふりかえっていました。（一部抜粋）  
・一つの話でも見る角度により全然違う考え方がある事を感じた。

・自分と向き合うという今までに全く経験のない時間を過ごした。

・お互いをあまり知らない状態から共感し、心が動かされたり感じ合う経験ができた。



研修終了時、仙台市西部に広がる青空（会場から）

・脳で意見を考え、ひと呼吸おいてから心でその思いや感情を相手に伝えることを体験した。

・沈黙の時間も多かったがとても大切な時間だったと思えた。

・各々の体験、想い、考えを忌憚なく話すという機会はほとんどなかったのも、各々の人柄や想いに触れある意味新鮮さを感じることができた。

・じっくり自分の心に向き合い恐る恐る言葉にしてみる。なんと贅沢な時間だったかと思う。

・「いま、ここで」の自分の気持ち、心が動いた感情に気づき、ありのままに素直に純粋にお話をする体験。

台風の影響で雨模様となった研修初日、会場は緊張した雰囲気にも包まれていました。研修2日目と3日目は秋晴れとなり、皆の表情も次第に和らぎ、最終日の会場には穏やかな空気が満ちていました。

11月からは講義も始まり、12月には相談員として仮認定となる予定です。2022年2月からはよいよ電話相談実習も開始します。コロナの状況次第ではありますが、来年11月には相談員として認定される予定です。 (事務局 N・M)

### 「こころ」のキャッチボールを…

今月末、当初の予定よりも2ヶ月遅れで47期研修生が認定されます。コロナの影響で予定が変更になり大変な中での研修でした。認定は研修生にとっても相談員にとっても待ち遠しいことです。

これまでの研修を通じて、皆さんにお伝えしきれなかった気持ちを少しお話をさせていただきます。

私たちの相談で扱う「いのち」は「こころ」がそれを支えています。「こころ」は目では見えませんが「感じとる」事ができるかどうかがとても重要です。担当したグループの方はすでにそれができていると思います。なので、認定されてからは是非、その時に感じとった「こころ模様」を素直なあなたの言葉で返してみてください。

「こころ」で感じたことを相手の「こころ」に返す、あたたかな「こころ」のキャッチボールをしていきましょう。 (N・A)

### 仲間として共に育ちましょう

コロナ禍の中47期養成講座が始まりました。まん延の一進一退と共に講座は進み、表情を確保すべくFaceマスクを着け、受講生同士の融和に努めました。長年に渡り積み上げられたカリキュラムは、順調に課題をクリアして行きました。皆さん頑張って認定SVを終える事でしょう。

当初の、どこか不安そうな顔が、この頃の研修では、理解も深まり、とても遅くなられたと感じています。受信件数が十分ではないので、相談者との価値感等との、共感と共調の狭間で疑問を抱いている事例もあります。私自身が改めて初心や“聴く”と言う原点に戻して戴きました。

人としての意味を見つけて、仲間としても共に育ちたいと思っています。 (S・H)

# さまざまな活動、再開しました!

2021年10月第5波が落ち着き、これまで電話相談・ネット相談の体制維持に努めてきましたが、その他の会議・活動を10月から再開しました。

相談員も例外なくコロナ禍の不安を受けており、やっと、さまざまな活動を再開しこれまで顔を合わせていなかった相談員同士「ひさしぶり、元気だった?」と弾んだ声であいさつを交わす様子が見受けられ、事務局としても安堵の気持ちで一杯です。今月号は、昨年中止した活動も含め再開した活動の様子を報告していただきました。(事務局)

## 「いのでんマルシェ」 催行! 気持ちは最高!

2021年10月2日土曜日午前10時～午後3時までサンモール一番町藤崎前にておそろいのエプロンと黄色のジャンパーを着て2年ぶりに「いのでんマルシェ」を開催しました。8月10日後援会打ち合わせのスタートからコロナ禍の中、催行出来るのかと不安はありましたが、当日は緊急事態・蔓延防止も解除され、更にお天気にも恵まれ多くの方に立ち寄り頂くことができました。

今回は例年とは違い一番はコロナ感染拡大予防の重視でした。ソーシャルディスタンス・消毒・手袋・飛沫防止などしっかり対策を取りお客様も手指の消毒などに御協力をいただいたと思います。

このようなコロナ禍でも快く提供協力を下さった企業様、明るく優しくお客様に対応されていた清月記の皆様と泉ロータリークラブの方々、忙しい中センターでの値段付けからご協力をいただいた相談員の皆さん、後援会菅原会長、大山理事のお心遣いに心から感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍、短い期間での準備に多々不安はありましたが、たくさんの方々の温かい心に支えられて無事終えることができました。

本当にありがとうございました。

(後援会 A・N)

## 後援会会長からご挨拶

昨年は新型コロナウイルスの影響で「いのでんマルシェ」は開催できませんでした。

しかし今年はコロナ禍の中で、感染対策をしっかりと行いながら開催することができました。

「いのでんマルシェ」を通して後援会会員様はじめ、サポートいただいている各企業の皆様方、多くの方々にご協力いただき、改めて支え



られているのだと実感いたしました。皆様の懇情に感謝申し上げますばかりでございます。

今後もこのような活動を通していのちの電話を多くの方々に知っていただくこと、そして出逢い、つながりを大切に共に歩んでいければと思います。(後援会会長 菅原裕典)

## 「いのでんマルシェ」に参加して

緊急事態、蔓延防止解除後の土曜、よい天気に恵まれ、マルシェに立ち寄りくださった方々から解放感に溢れた元気な様子が伝わってきました。

顔の見えない電話やネット相談とは異なり、お客さまの表情を見ながら掛け合って繋がることを楽しむことも出来ました。一方で判断を誤ったり自分の価値観を押し付けたりはしなかったかなとか、間や距離感の取り方は電話と同様、大切なことだと後でふつふつと思いました。

ご協力くださった企業さんから提供していただいた商品を一品でも手に取り購買に結びつけてくれないかなとひたすら頑張った充実感を伴った一日となりました。久しぶりに値付けから販売まで関わり、こういうことは嫌いじゃない自分を再認識しましたが、喜寿を過ぎての立ちっぱなしは、時間が経つにつれ、じわじわと身体に跳ね返ってきました…苦笑

(K・Y)

## フリー学習会「ロゴセラピーを通じて」

毎月第3金曜日の午後、十数名の相談員が参加し、國分振先生のご指導の下、精神科臨床医であったヴィクトール・E.フランクルのロゴセラピーについての著作の読書会です。

コロナ禍のパンデミックは、フランクルの三つの価値の“態度価値”が問われる重大な危機です。フランクルはユダヤ系と言う事で、ナチス党に拘束され、収容所に送られます。家族と引き裂かれ、収容所の中で絶望生活を余儀なくされます。その様な中でも“生きる意味”を追求しました。

体験記「夜と霧」をはじめ、彼の著書の読書会です。会は4冊目「それでも人生に、イエスと言う」解り易い本を読んでいます。予期せぬ危機は、起こりうるものです。その時、“あなたなら、どう対処しますか”コペルニクス的発想があなたをきっと強くするでしょう。(S・H)

## リフレッシュ研修開催

11月6日、相談活動7年目と3年目の相談員14人が参加してリフレッシュ研修が行われました。

講師は専門委員の大和田誠子先生で「コインマップ」という技法(自身の人間関係を数種類の硬貨を使って価値を示し地図のように配置する)により、関係性を客観的に、また、短期長期的に、さらに過去や未来における潜在意識をも可視化できるワークを体験しました。研修中先生が二人組の後方からそっと助言されている姿が印象的でした。

日頃の研修とは趣の異なったワークとなった今回の研修が、日頃の活動を支えて頂いている皆様のねぎらいになったのであれば幸いです。

(事務局 Y・K)



## 「すみれの会」活動再開にあたって

「すみれの会」故宮腰孝先生は15年前どんな思いでこの名を付けてくださったのだろう。ふと、そんなことを考える。すみれの会はこの10月で16年目に入った。今年は5回も中止せざるを得なかった。参加者も激減する中、じつと耐え回復の時を待った。その時間は決して何もしていないわけではない。心の中はとてもしく動いている。

そして活動が再開した今、ウイルスの心配は続いているが、気持ちを落ち着けて、一つひとつ丁寧に取り組んでいきたいと思う。私達はこれからも、いつもの会場、いつもの時間、そしていつものように安心して語り合える場を大切に、参加者の皆さんをお待ちしています。(M・M)



## ハンドメイドの会「癒しの時間を共有して」

毎月第1木曜日の午前10時から、センターに会員が集い活動しています。編み物・刺繍・刺し子などを各自持ち寄り、手を動かしながら和気あいあいとした雰囲気の中、ボランティア活動での悩みや、率直な自分の思いを自由に語り合う場となっています。

おしゃべりだけの参加も大歓迎です。時間内に安心して話せるように心掛けています。ほっと出来る癒しの時間を共有してみませんか!

(M・N)

参考:「ハンドメイド会」のルーツをたどると、25年程前から名称を変遷しながら、相談員同士集まって活動してきました。(事務局)

# 七ヶ浜町ゲートキーパー養成講座へ講師派遣

七ヶ浜町健康福祉課から「仙台いのちの電話」へ七ヶ浜町民生委員児童委員の皆さんを対象に「七ヶ浜町ゲートキーパー養成講座」を開催するのに伴い、講師派遣の依頼があった。実に1年数ヶ月ぶりの要請、さっそく齋藤眞研修委員長に講師をお願いし、10月21日14時から七ヶ浜町水道事業庁舎会議室にて開催された。テーマは「悩んでいる人を支える～傾聴の大切さ～」。27名の参加者があった。

齋藤委員長は講話の冒頭で、参加された委員の方々に対して「皆さんはこれまでの活動の中で、人と対話する基本的な力は既に身につけているはずであり、先ずはその力を活かすことが大切」と話され、「その力の上に、自殺念慮がある人への対応などで留意を図るようにすれば、悩んでいる人への対応がよりよくなると思います」と敬意の意見を述べられた。

一般のコロナ禍と自殺者数についても触れられ、第一波（2020年2月～6月）と第二波（2020年7月～10月）の自殺者数の推移について、それぞれの過去3年の同時期と比較しての増減について説明された。

講話の後半は、「いのちの電話」精神の原点であるサマリタズ運動の説明から始まり、基本姿勢である非専門性（be-friending）の重要性について、「友として問題を一緒に受け止めるという、対等な協力関係が大切である」と言及されていた。

講話の後のロールプレイでは用意されていたシナリオを元にメンバーを代表した3名で実践していただいた。自宅を訪問してくれる民生委員と住民のやりとりを中心に様々なケースを想定して行われた。参加者からは、ねぎらいも配慮されていて、参考になったという意見が寄せられていた。講話の大切な

点がシナリオにも反映されており、ゲートキーパーの役割を認識した内容だった。

最後の質疑応答では、仙台いのちの電話が1年365日、24時間毎日活動されていることへの感謝の言葉を述べられた参加者もおられ、今後の活動に勇気をいただき講義を終了した。（事務局 S・Y）



## 研修講師を終えて

この日は、講義とシナリオロールプレイを行いました。講義では、自殺者数の現状やゲートキーパーの役割・聴き方、いのちの電話における聴き方などについて話しました。皆さんマスクをされていたので、反応がわかりづらいところもありましたが、熱心に聴いていただいたと感じました。

ロールプレイでは、受講者2名と役場職員1名に演者をお願いし、用意したシナリオを読み上げてもらいました。その後、皆さんから感想等を出していただきました。シナリオは標準語で書いてあったのですが、「長男の妻」役の受講者は地元の方言に言い換えて演じてくださり、迫真性が大いに増したことで会場も盛り上がりしました。（齋藤眞研修委員長）

## 活動報告

2021年7月～		10月 2日	いのでんマルシェ (サンモール一番町藤崎前)
7月 3日	第48期相談員養成講座開講式		
7月 9日	運営委員会	10月 8日	運営委員会
7月25日	第8期ボランティアリーダー養成講座開講式	11月 6日	リフレッシュ研修
8月20日	運営委員会	11月12日	運営委員会
9月 3日	運営委員会	11月14日	仙台いのちの電話 つどい (仙台センター)

# つどいの会 開催（継続30年を振り返って）

2021年度の「つどい」は、コロナ禍の影響もあり延び延びとなっていましたが、11月14日午前11時からエルエルセンター大会議室で開かれました。参加者は18人で、冒頭、飯岡智理事長から法人の現況報告と長年活動された相談員への労いのご挨拶を頂き、続いて坂本事務局長から令和2年度の事業報告及び3年度の事業計画の報告がありました。

その後、長年活動された継続相談員（30年3人、20年1人、10年4人）への感謝状贈呈式へ移り、当日参加の5人の相談員一人一人に理事長から感謝状を授与、長年の功績に対してお祝いの言葉を齋藤眞研修委員長からいただきました。

最後に受章者からご挨拶をいただき「仙台から転勤しても子育て期も相談活動してきた」「同業者の相次ぐ自殺を受けてなんとかしたいと相談員になった」「同期の仲間を支えられてここまでこられた」「3月11日が誕生日で縁を感じていた」「大震災の混乱の中での活動を思い出していた」など、これまでの思い出を述べられ、中には「相談室の中で人生最期を迎えられたら本望と思う」との言葉もいただきました。

今回も、感染防止の観点からこれまでの茶話会形式を省略し、三密防止に気を配りながらの開催でしたが、来年こそ以前のような開催ができるように願って閉会となりました。（事務局）

## 「聴く耳」があれば語れる

相談員30年

終わりを決めずに30年続けて来た。自分では数えようと思わなかった年月。それは私自身が生きてきた人生そのものの時間。私の人生と電話相談員としての時（とき）を切り離して考えることはできない。やめたいと思った時、私を踏みとどめた言葉、「人生の重荷を降ろした人には話せない。今苦しみの中に居て黙って聴いてくれる人に話したい」。そこに立つ事を私は自分の相談員としての在り方と思った。共に在るとはそういう事ではないだろうか。私は4人の親を亡くし、7人の子の母となり、ひとりの息子を亡くした。

30年の年月が私にあった。私は「聴く耳」であっただろうか。（O・Y）

## 「国分町の片隅で」

相談員30年

1990年11月、沢山の気づきをいただいた2年の研修が終わり、相談員になりました。仕事をしながらの活動ゆえ、当番はいつも夜の時間帯でした。当時、LLセンターはネオン輝く国分町とあるビルの屋上に在ったのです。深い話に心を震わせながらセンターを後にすると、赤い顔した酔人の楽しげな様子が目に飛び込んできました。「電話

の内と外」この現実が、上手く気持ちを切り替えられない私を、幾度となく助け元気をくれました。当番では緊張しながら事務局に顔を出すと、いつも温かく迎えていただき、ボランティアの世界っていいなと強く感じたものです。

今日まで継続できていることは嬉しく、何より諸先生はじめ相談員の方との交流があったからと感謝しています。（S・S）

## ひとむかし

相談員30年

30年前の11月14日「相談員認定証」を授与され相談員になりました。甲原先生のほっとしたような温かい眼差しが印象に残っています。

養成講座「感受性訓練」では経験したことのないカルチャーショックを受けました。実習に入った時の受話器からの第一声は今も耳に残っています。

これまで経験した中で「相談員の会設立」「相談電話24時間制移行（1997年）」「いのちの電話相談員全国研修会仙台大会・国際会議 in 仙台（2010年）」などに参加し明るい未来に向かう変革期に立ち会った感じがしました。

相談員、事務局の皆さまに支えられ長く続けることが出来ました。感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。（S・A）

## 資金ボランティア

2021年6月1日～2021年10月31日受付 [敬称略・順不同]

ありがとうございます。  
皆様のご支援で24時間「仙台いのちの電話」はつながっています。

### 維持・賛助(個人)

相 沢 光 哉  
会 田 久 子  
浅 川 良 子  
安 住 しげみ  
安 達 京 子  
石 橋 眞 一  
板 井 上 本 幸 子  
岩 木 理 一 郎  
薄 藤 和 子  
遠 大 大 村 涼 子  
大 山 照 江 子  
大 川 順 子  
鴨 地 伊 津 子  
菊 地 正 剛  
熊 谷 勝 子  
國 分 振 子  
後 藤 悦 子

今 野 ま さ 子  
齋 藤 昭 子  
藤 義 子  
佐 藤 和 子  
藤 藤 和 子  
藤 藤 司 郎  
藤 藤 由 利 子  
佐 藤 ノ カツトシ  
更 科 田 玲  
嶋 順 好  
清 水 恵 子  
白 石 洋 子  
菅 原 典 子  
鈴 木 百 合 子  
須 藤 さ い  
関 口 秀 義  
高 橋 義 善  
田 中 葉 一  
千 原 雅 保  
照 永 井 床 恵  
信 岡 美 智 代  
平 賀 秀 弘  
賀 平 ノ ブ

深 野 せつ子  
三 河 寛 道  
宮 崎 てつ子  
武 藤 伸 子  
山 本 美 喜  
山 家 雪 雄  
若 生 芳 子  
匿名 3名

### 維持・賛助(団体)

(医) 静実会  
(宗) 活牛寺  
環境設備工業(株)  
(株) 構創企画アベ  
(宗) 耕田寺  
笹氣出版印刷(株)  
(株) 佐々直  
仙台ライオンズクラブ  
仙台広瀬河畔教会 婦人会  
東日本電信電話(株) 宮城事業部  
(学法) 朴沢学園  
(学法) 宮城学院

(一社) 宮城県精神科病院協会  
桃生佛教会

### 一般寄附・その他(個人)

鎌 田 幹 子  
高 橋 研 二  
匿名 3名

### 一般寄附・その他(団体)

(株) 一条工務店宮城  
(株) 河北新報社  
わたしの雑貨&セラピーらべんだあ

### チャリティ自販機

かまどや大衛店  
(株) TG サポート  
(学法) 宮城学院女子大学

### 募金CAN

佐 藤 か ち 子

### 仙台いのちの電話

センター内チャリティ(クッキー売上)

### ～幸せの黄色いレシート～

毎月11日イオン富谷店に、「仙台いのちの電話」のBOXが設置されます。  
お買いもの際はぜひご協力ください。